

教員養成課程をもつ大学におけるピアノ指導メソッドの開発 (1)

仲田 久美子

The Development of the Piano instruction method
at University with Teacher Training Courses (1)

Kumiko NAKADA

1. 問題と目的

現在の教員養成大学のカリキュラムにおいて、専門科目であるピアノ実技のレッスン時間は決して充分とは言えない状況である。この点について、平成22年度日本教育大学協会全国音楽部門大学部会の第6分科会でパネリストによって報告された事前アンケート結果で明らかになっている。そのアンケートでは多くの教員が、レッスン時間が短いことやレッスン時間の不足を指摘している。これには様々な背景があると思われるが、教員数やコマ数の問題などの物理的な問題が一番に挙げられることは否定できないであろう。実際、レッスンの時間が短いことに不満を抱く学生も多くみられる。また、たとえ学生のレッスン時間に関する不満を教員が理解していたとしても、前述の物理的な問題により解決できない状況は多いと思われる。つまり、学生にとっても教員にとっても適当なレッスン時間が確保しにくいことは問題だと言える。

その他、学生個人の能力の差が著しいことも教員にとっては問題であろう。入学時にピアノ演奏技術の程度が低い学生でも、本人の努力さえあれば卒業時には問題がない場合がほとんどである。しかし、大学入学後もピアノの自主練習が身につかず、長期に渡り上達できない学生もいる。このような学生が大学入学後にピアノ演奏技術を身につけ、無事に教員養成大学を卒業することができるまで、我々教員は親身になって養成する義務がある。他方では、入学当初からピアノ演奏技術向上に熱心な学生も多数いる。授業においてはどのようなレベルの学生に対しても、全員に不公平にならないよう、教員は常に注意を払うべきであろうし、このような両極端な学生の対応についても考えるべきであろう。

以上のように様々な問題がある中、また限られたレッスンの時間の中で、どのようなレベルの学生にも効率よくピアノ演奏技術を習得させるために、レッスンの直後に記入させるチェックシートが有効ではないかと考えた。本論では、教員養成大学の専門科目のピアノ指導においてチェックシートを用いる場合、どのようなものを作成するのが効果的かを検証し、チェックシートを用いた指導法の開発の第一段階としたい。

2. 先行研究

まず、教員養成大学のピアノのレッスンにおいてチェックシートを用いた授業が行われているかについて調査した。その結果、学生に振り返る機会を持たせ、教員が確認するという双方性を持つピアノ指導方法を実施している先行研究が存在した。この指導方法はチェックシートというより、むしろポートフォリオを使用した指導方法と言ってよいと思われる。それは、岡山大学の長岡、三重大学の兼重、鳴門教育大学の森、宮崎大学の阪本らによって平成18年度からこれら4つの大学で共通の調査票¹を用いて

1 この指導法に用いたチェックシートは「学習状況調査票」と呼ばれ、レッスンまでの練習態度やレッスンについて学生が記述するもので、紙媒体またはメール形式でのやり取りを各大学それぞれで行っていた。学生の記述に対して教員がコメントを記入する欄もある。

実施されたものである。これらの大学で実施された内容をベースに、平成19年度の日本教育大学協会音楽部門大学部門で兼重によってその研究発表が行われている。三重大学では平成20年度後期からはエクセルファイルの調査票²に変更し、この指導法は平成21年度後期までで一旦打ち切られている。その他、岡山大学の長岡は平成18年度の1年間、ワードファイルを用い紙媒体で調査を実施し、宮崎大学の阪本は平成18年度4月から平成20年度3月まで、ワードファイルを用いメールまたは紙媒体にて調査を実施している。なお、鳴門教育大学についてはまだ回答が得られていないため不明である。

その他には、ピアノの学習用ではないが、フランス語の学習においてポートフォリオを用いた授業を提案しているテキストがある³。その中で著者は「ポートフォリオとは、自己評価を中心とする学習と評価を一体化したシステムのことで、ポートフォリオは学習結果だけでなく学習過程を重視する考えに基づいています⁴」と述べ、さらに「みなさんが自ら自分の学習過程を意識化すること、つまり学習の仕方や結果をふり返ったり、これからどうしたらいいのかを考えることは、モチベーション（やる気）を維持し、自己管理能力や自律学習能力を身につけるのに役立ちます⁵」とも述べている。つまり、予習と復習が欠かせない語学の授業において、毎授業後、学生自身に自己分析させ、同時に授業についての興味を学生自身に文字化させることによって自律学習を促していると考えられる。また、語学教授法の研究をしている峯石はポートフォリオを「学習者がある領域・プログラムにおける進歩の度合いを自己評価するために収集し、選択し、それに基づき内省を行うための学習資料⁶」と定義付けている。

3. 研究方法

これらの先行研究をふまえて、岐阜大学教育学部音楽教育講座の専門科目であるピアノのレッスン⁷において、筆者が担当している学部生のうち定期的にレッスンに参加している20名（1年生6名、2年生5名、3年生5名、4年生4名）を対象に筆者が作成したチェックシート記入指導を実施した。ここで、筆者が「チェックシート」と言う理由は、現段階で筆者が実施に使用したものがポートフォリオではないと考えるからである。なぜなら、今回作成したチェックシートには学生と教員間の相互間のやり取りはなく、学生が自己を振り返りそれを教員が確認するという内容だからである。

このチェックシートの作成にあたっては、当初はシラバスに掲載してある授業目標や授業計画などをもとに構成しようと試みた。しかし、シラバスの授業目標や授業計画が学年やセメスターによって異なり、複数の異なる内容のチェックシートを作成しなければならないという問題に直面した。そこで、どの学年のどのようなレベルの学生にも対応できるような内容に統一することにした。

なお、今期作成し実施し本研究での分析に使用したチェックシートは、本論では紙面の都合上、2カ月間の第8回までを一区切りとし、学生の反応や意見をまとめることとした。

4. チェックシートの内容とそのねらい

各回のチェックシートの内容と各設問のねらいは以下の通りである。なお、各回のチェックシートは毎回A4用紙で1枚分の大きさで、設問数は毎回およそ8個項目程度である。各回の後半では「自分とピアノ」「自分と練習」などを振り返るための設問を組み込んだ。なお、実際の各回のチェック

2 それまでの調査票より記述欄が増え、教員のメッセージを記入する欄もある。

3 大木充、西山教行、ジャン＝フランソワ・グラツィアニ『グラメールアクティヴ』別冊ポートフォリオ、(朝日出版社、2010年)。このポートフォリオは全20回の授業を想定してポートフォリオが作られており、毎回の教員の記入欄については「担当者確認欄」という印鑑を押すスペースはあるが、コメントを記入する欄はない。

4 大木充、西山教行、ジャン＝フランソワ・グラツィアニ、同上書、表表紙の裏面。

5 大木充、西山教行、ジャン＝フランソワ・グラツィアニ、同上書、表表紙の裏面。

6 峯石緑『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』(溪水社、2002年)、7頁。

7 現在、当講座では、ピアノは1年から4年までの全学生を対象に開講しており、筆者の担当しているクラスでは一コマ90分の間に4名から6名の学生が個人レッスンを受けている。

シートの最上段には学生の学年と名前、その日にレッスンで弾いた曲目を記入する欄があるが、本論では省略した。また、チェックシートの行間については紙面上の都合上、実際のものより詰めて記載した。

第1回目のチェックシートと各設問のねらい

①今日のレッスンで自分が習得できたと思うものに✓をしましょう。

指くぐりの奏法	連続した動きの安定性
困難な跳躍の奏法	曲中でテンポが変化する曲の構成力
連打の奏法	音量配分の計画性
均等に演奏すべきアルペジオの奏法	ペダルの技術
スタッカート奏法	3度や6度の重音奏法の技術
単旋律のレガート奏法	左右で旋律線を受け渡す技術
連続した重音や和音のレガート奏法	手を交差させる技術
早い動きでポジションを移動する技術	楽曲の構成をつかみ、まとめる技術
PPで演奏する技術	演奏に対する集中力
力強さが求められる曲想	曲に相応しい音色で演奏する技術
軽さを求められる曲想やパッセージの奏法	その他：
トリルや装飾音の奏法	：
ポリフォニー奏法	

②今日のレッスンで習得しきれなかったと思うことは以下のことである。

a

b

③今日のレッスンで習得しきれなかった内容は以下のような方法で習得すればよいと思う。

a

b

④今日のレッスンは_____だったのは、私が_____からだと思う。

⑤次回のレッスンでは_____したい。

⑥私は先生に_____を期待している。

⑦レッスンを受けることで、私は自分自身に_____を期待している。

⑧私にとってピアノの学習は_____である。

①では、具体的な習得内容を予め列挙しておき、その中で学生が習得できたと思うものにチェックをつけるという方法をとった。これにより、まずはピアノ演奏には多くの学ぶべき点があることを自覚してもらうことがねらいである。また、学生自身自分が何を習得したかを一目瞭然で分かるようにし、記入に時間がかからないようにしている。②では、レッスンの内容をレッスン直後に振り返らせ、思い出して自分の言葉で記入させることがねらいである。また、レッスンで受けた指摘を文字化することで、自分の課題を再確認させることがねらいである。③では、教員からの助言や学生本人が考えた練習方法を具体的に記入させることで、次回のレッスンまでに自分が何をすべきかを自覚させることがねらいである。④では、レッスンに対しての自己の態度や心構えを学生に振り返らせることがねらいである。⑤では、学生本人が自分の言葉で目標を記入することで、次回のレッスンまでに自分がやるべきことを明確化させることがねらいである。⑥では、学生が記入した内容を教員が確認すること

で、教員が各学生に対してそれぞれに合う指導法を考えることがねらいである。⑦では、学生にとってレッスンのような存在であるかについて、教員が把握することがねらいである。⑧では、学生がピアノの学習をどのようにとらえているかについて、教員が把握することがねらいである。

第2回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。

⑥上記③（今日のレッスンで習得しきれなかった内容は以下のような方法で習得すれよいと思う）で書いた習得方法を達成するために私は_____したい。

⑦現在の私のピアノの演奏能力は_____である。

⑧ピアノの練習は私にとって_____である。

⑥では、次回のレッスンまでに自分自身がどのようになりたいかを文字化することでレッスンへの意識を高めさせるのがねらいである。⑦では、自己を振り返らせることがねらいである。そこには、現在の能力を把握させようとして、より高い目標をもたせるねらいもある。⑧では、第一にピアノの練習について改めて考えさせることがねらいである。第二にピアノの練習がその学生にとってどのようなものであるかを教員が把握することで、学生が何を思って練習しているかを知ることもねらいである。

第3回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。また、⑥については第2回目と同様のため省略する。

⑦私のピアノ練習法の改善点は_____である。

⑧私は_____のためにピアノを練習している。

⑦では、これまでの練習方法を振り返らせることがねらいである。改善点がある場合はそれを文字化することで今後の練習にいかせるようにすることがねらいである。⑧では、なぜピアノを練習しているのかについて考えさせることがねらいである。また、ピアノの自主練習がなかなか定着しない学生には、自分が何のために練習しているのかを再確認してもらうことがねらいである。

第4回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。また、⑥については第2回目と同様のため省略する。

⑦現在の私の音楽的長所は_____だと思う。

⑧4週間を振り返り、このシートへの記入は私にとって_____であった。

⑦では、自分を肯定的に捉えることで練習や演奏に前向きになってもらうことがねらいである。⑧では、チェックシートへ記入してきた内容を振り返り、ピアノに対する姿勢に変化があったか自己確認させることがねらいである。

第5回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。

⑥上記③で書いた習得方法を達成するために私は、毎日_____をする。

⑦私のピアノ演奏における身体的な長所は_____だと思う。

⑧ 4週間後の自分の演奏は_____であることを願う。

⑥では、第4回目までの「～したい」という表現から、「毎日～をする」という表現に変えることで、それまでより強い意思をもって練習に臨ませることがねらいである。⑦では、第4回目の設問⑦と同様、自分を肯定的に捉えることで練習や演奏に前向きになってもらうことがねらいである。⑧では、過去の振り返りだけにとどまらず、近い将来の自分を思い描くことで目標を明確化させることもねらいである。

第6回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。

⑥よい演奏というのは_____な演奏だと思う。

⑦よい演奏をするために、今の自分に必要なことは_____だと思う。

⑧ピアノとは今の自分にとって_____である。

⑥では、自分を振り返るだけでなく、広い視野をもって思考させ、自分もそうありたいと願い向上心を養うことがねらいである。回答には音楽的な一般論や、自分がこうありたいと願う姿を思い描いて回答させることをねらいとしている。⑦では、現在の自分をよりよくするために必要な要素について具体的に考え、明確化させることがねらいである。⑧では、第2回目の設問⑧と近い質問であるが、ここでは「練習」というよりむしろ自分にとって「ピアノ」がどのような存在であるかを自覚させることがねらいである。また、それを教員が把握することで、学生がどのようにピアノに向かっているのかを知ることもねらいである。

第7回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。

⑥ピアノの練習に一番必要なことは_____だと思う。

⑦ピアノの練習を苦痛に感じないためには_____が必要だと思う。

⑧1年後の自分の演奏は_____なことを願う。

⑥では、学生が練習時に何に気を付けて、どのような姿勢で取り組んでいるかを知ることがねらいである。⑦では、学生が普段どのようなことを考えて練習をしているか知ることがねらいである。⑧は第5回目の設問⑧と近い設問であるが、第7回目により長期的な自分のありたい姿を思い描かせ、根気をもって練習に取り組ませることがねらいである。

第8回目のチェックシートと各設問のねらい

①から⑤までの内容は第1回目と同様のため省略する。

⑥私はレッスンの復習を、_____ (いつ)、_____ (どこで) している。

⑦今期、チェックシートへ記入をしたことで、自分には以下のような変化があったと思う。(自由記述)

⑥では、本来練習をする前にすべきレッスンの振り返りについて記入させている。学習態度が定着している学生はこの設問にすぐ答えられると思われるが、そうでない学生にはこの設問は答えにくいであろう。従ってここでは、学習態度の振り返りをさせることがねらいである。⑦では、2カ月間に渡りチェックシートに記入してきたことでどのような変化があったのか(またはなかったのか)を教員が知ることがねらいとしている。

以上が研究方法とチェックシートの設問内容、また、そのねらいである。前述の通り、このチェックシートには学生と教員間のやり取りはなく、学生が自己を振り返る内容となっており、レッスン直後に学生が記入したそのチェックシートを筆者が受け取り、その日のうちに内容を確認する方法をとった。なお、気になる記述をした学生には次回のレッスン時に口頭で対応した。また、第9回から最終回までのチェックシートの内容とそのねらい、結果については改めて報告するつもりである。

5. 設問に対する回答

各回の設問①から設問⑤は取り組む曲目や学生の演奏技術のレベル、また進捗や状況によって記入する内容が大きく異なってくるため、各回の後半の設問だけを取り上げる。以下に、それぞれの回答結果を学年別に、そして回答順は変えずに／で区切って記載する。なお、欠席のところは「(欠席)」と記載した。

第1回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑥私は先生に_____を期待している」という設問に対して、

- 1年生：無回答／見本をみせてくれること／自分のピアノ技術が向上するためにすべきことをアドバイスしてもらうこと／苦手なことができるようになる指導をしてもらうこと／たくさんのアドバイスをもらうこと／基本的な技術向上のための指導。
- 2年生：練習で気付かなかった点やわからない点を教わること／何が必要なのか見出してもらうこと／完成度を高めるための指導／完成度を高めるレッスン／頑張ってもらってほめてもらう。
- 3年生：たくさん指導されること／その作曲家に合った演奏方法を指導してもらうこと／苦手な技術ができるような指導をしてもらうこと／その時々合った指導をもらうこと／ダメなところを全部言ってもらいたいこと。
- 4年生：なし／客観的な視点／困っている時にヒントをくれること／苦手なところを発見してもらうこと。

「⑦レッスンを受けることで、私は自分自身_____を期待している」という設問に対して、

- 1年生：一歩ずつ前進する／より曲の仕組みを理解して、ただ音符を追うだけではない演奏ができるようになること／ピアノの技術が向上すること／できるまで努力すること／最後まで弾き通せること／冷静に自分の音を聴くこと。
- 2年生：やる気を出すこと／ピアノを好きになること／技術の習得／曲の構成をつかむこと／自分では気が付かなかった指摘を素直に受け入れ向上していくこと。
- 3年生：ピアノの技術の向上と、自分の弾きたいように弾けるようになること／演奏するときに自信がもてるようにし、作曲者の意図や風景を感じながら演奏できるようになること／練習に集中する力をつけ、計画的に練習するようにし、満足できるように仕上げること／少しでも自信をもって弾けるようにして、考えて弾けるようになること／作曲家に合う音色でしっかり弾けるようになること。
- 4年生：気づき／練習時に気が付かないところや分からなかったことを明確にすること／集中力が身につくこと／苦手なところを見つけ、練習方法を自分で見つけること。

「⑧私にとってピアノの学習は_____である」という設問に対して、

- 1年生：難しい質問です／表現したいことを表現できる技術を身につけること／将来の夢のための勉強／自分を成長させてくれるもの／精神を強くするための学習／自分との戦い。
- 2年生：弾ける楽しさを増やすもの／音楽性を鍛える場／楽しくもあり辛くもあるもの／集中力を高めるためのもの／将来のためのステップ。
- 3年生：自分を高めるもので将来の役に立つもの／自分を表現し、集中力を高める学習／自分の視野

を広げ、自分を鍛える学習／集中力を保ち耳や頭を使ってする学習／とても大切な勉強。

4年生：思考回路のリハビリ／自分自身の弱点を知る基準／自分の演奏をよりよくすること／自分の弱点と向き合うこと。

第2回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑦現在の私のピアノの演奏能力は_____である」という設問に対して、

1年生：自分の理想よりはるかに下／曲を弾きこなすことのできないもの／まだまだダメ／まだまだ／最低／低くて困っているもの。

2年生：足りないものだらけ／まだまだ／まだまだ／まだまだ／練習次第。

3年生：自分のやりたいことができていない／表現力に欠ける／弾くことに精一杯で表現に至っていない状態／音を追っているだけの状況／全然ダメでまだ弾くのが精一杯。

4年生：まだまだ／体がうまく使えていない状態／指がきちんと動かない／まだまだ。

「⑧ピアノの練習は私にとって_____である」という設問に対して、

1年生：自分の成長／作曲者の意図を汲めるようになること／自分の将来のための勉強／もっと頑張りたいもの／現在最も必要なこと／難しく感じてしまうもの。

2年生：やる気がでるまで時間がかかるもの／楽しく弾くための練習／辛いもの／集中力を高めるもの／毎日しなくてはいけないもの。

3年生：自分の思うように曲を弾けるように体も頭もフル活用する時間／レッスンで教わったことを自分のものにするための時間／色々なことを同時にこなす練習のひとつ／集中力と音感を養う時間／楽しい時間で大事。

4年生：冷静に考える訓練／精神統一／息抜き／勉強。

第3回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑦私のピアノ練習法の改善点は_____である」という設問に対して、

1年生：効率が悪いこと／集中力を持続させること／もっと集中して自分の音を聴いて弾くこと／イメージと表現の仕方／弾けるところばかり弾かないこと／集中力がないこと。

2年生：中途半端でそれ以上考えられていないこと／ただ音を出しているところ／根気のなさ／部分的に練習すること／まず練習時間を確保すること。

3年生：旋律以外の和音も聴いて全体をとらえること／ただ弾くのではなく、旋律や内声外声などの調和を意識して練習すること／体の柔軟性／部分練習を好きになること／速いテンポでの両手練習ばかりしてしまうこと。

4年生：自分を甘やかさない／なんとなく弾かないこと／つかえないこと／楽譜に書き込みをして分かりやすくすること。

「⑧私は_____のためにピアノを練習している」という設問に対して、

1年生：技術向上、上手になりたい／楽譜通りに曲が弾けるようになる／将来の目標／頑張る／自分の成長／ピアノを知る。

2年生：自分／楽しく弾けるようにする／上達／集中力を高める／うまくなる。

3年生：ピアノが好きなので、自分の思いをそのまま演奏する／その曲の良さを理解して、良さが演奏で表現できるようになる／技術の向上／諸感覚を使って何かをすること／自分の弾きたいように弾けるようになる。

4年生：楽しめるようになる／自分の弱点を見つける／集中力／心からの拍手をもらう。

第4回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑦現在の私の音楽的長所は_____だと思う」という設問に対して、

- 1年生：暗譜が早いこと／一定の速さで弾けること／わからない／速く弾くことに苦手意識がないこと／（欠席）／わからない。
- 2年生：初見が得意／歌いたいと思えるところ／（欠席）／今やっている曲が自分の音色に合っていること／暗譜が早いこと。
- 3年生：ピアノを弾く時にこうしたいという意思があること／集中して練習に取り組めること／以前より呼吸感をもてるようになったこと／和声を考えていること、初見が得意なこと／今はない。
- 4年生：暗譜だけはできること／丁寧に弾けること／暗譜が早いこと／（欠席）。

「⑧4週間を振り返り、このシートへの記入は私にとって_____であった」という設問に対して、

- 1年生：予習と復習／レッスンで言われたことを頭に入れるためのもの／とても役に立つもの／レッスンを振り返り、次へ向けて何を意識したらよいか知ることができ、とても良かったもの／（欠席）／決意。
- 2年生：レッスンの振り返りで覚えている助けになるもの／有意義／（欠席）／よいもの／その日の復習。
- 3年生：自分をみつめる時間／レッスンの振り返りができて良かった／練習課題を明らかにする方法／次につなげて復習できるもの／レッスンを振り返るよい機会。
- 4年生：振り返り／目標を明確にすること／苦痛だけどレッスン内容が頭に入る／（欠席）。

第5回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑦私のピアノ演奏における身体的な長所は_____だと思う」という設問に対して、

- 1年生：音が大きいこと／わからない／わからない／手がよく広がること／手が大きいこと／指が長いこと。
- 2年生：指が細い／ない／（欠席）／集中が高められること、落ち着きがあること／足の指に細かく力を入れられるところ。
- 3年生：（欠席）／特にない／上手な人の動作を真似できること／集中すれば耳で音を立体的に感じること／無回答。
- 4年生：手が大きいこと／手がやや大きいこと／暗譜が早いこと／足の位置がよいこと。

「⑧4週間後の自分の演奏は_____であることを願う」という設問に対して、

- 1年生：旋律線がよく響くこと／もっと歌って弾けるようになっていくこと／聴いている人が楽しくなるような演奏／細かいところまで配慮して弾ける／前進している／表現を追求した演奏。
- 2年生：暗譜できている／とりあえず無難に弾ける状態／（欠席）／少しでも曲を自分のものにできる／仕上がっている。
- 3年生：（欠席）／フレーズを感じてまとまりのある演奏／止まらずに弾ける／構成がはっきりしている／表現豊かに弾ける。
- 4年生：次の曲に取り掛かっていること／エネルギッシュでインパクトのある演奏／気楽に弾ける・暗譜が完璧であること。

第6回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑥よい演奏というのは_____な演奏だと思う」という設問に対して、

- 1年生：抑揚のある／（欠席）／作曲家が求めていることをやり、音が踊っているように感じられるような／聴く人にイメージや気持ちを伝えられる／表現が明確／聴く人が喜ぶ。
- 2年生：よかったと思える／安心して聴くことのできる／心地よいと思う／自分が納得して弾き、聴

く人に伝わるような／聴く人がよい演奏だったと思ってくれる。

3年生：聴く人が楽しめたり感動できたりやすらぐような／気持ちを込めた／めりはりがあって、聴く人を引き込める／抑揚があり聴く人の心に何かを訴えるような／表情がついてよく歌っているような。

4年生：聴き手が違和感をもたないような／まとまりがあり流れがある／自分が意識して弾けるように／頭を使って音が出せるような。

「⑦よい演奏をするために、今の自分に必要なことは_____だと思う」という設問に対して、

1年生：技術／（欠席）／音色が曲に合っている／表現力／練習と曲に対する愛／自信をつけること。

2年生：雑音を減らすこと／止まらずに弾くこと／練習すること／曲を自分の曲にできるよう練習／手の筋肉を鍛えることと練習。

3年生：自分の音や演奏を聴くこと／集中力／集中力／細かい練習をすること／よく歌って弾くこと。

4年生：リズム練習／細かい部分の正確さ／集中すること／分析。

「⑧ピアノとは今の自分にとって_____である」という設問に対して、

1年生：生活の一部／（欠席）／将来の夢のための勉強であり、自分を表現できるもの／もっと上手になりたいもの／修行／様々な音楽との出会い。

2年生：苦痛でもあり楽しみでもあるもの／勉強する手段／もっと時間をかけなくてはいけないこと／集中力を高める／しなくてはならないもの。

3年生：好きでずっと続けたいもの／集中力をつけるもの／集中力や計画性をもった学び方をする訓練／刺激を与えてくれるもの／頑張りたいこと。

4年生：自分との戦い／音楽の基準／集中できる時間／勉強の道具。

第7回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑥ピアノの練習に一番必要なことは_____だと思う」という設問に対して、

1年生：目標を立てること／根気／自分の音をよく聴くこと／自分が何をすべきなのか目標をもって取り組むこと／（欠席）／楽譜から色々なことを感じ取ること。

2年生：計画性／向上心／練習方法の効率の良さ／どのような弾き方がよいか疑問をもつこと／集中力。

3年生：練習量、そして自分の演奏を聴くこと／部分練習／根気と効率の良さ／部分練習をするための集中力／（欠席）。

4年生：（自分の演奏を）疑うこと／集中力／集中力／考えながらやること。

「⑦ピアノの練習を苦痛に感じないためには_____が必要だと思う」という設問に対して、

1年生：息抜き／小さな目標／楽しみにしていくこと／どのような演奏をしたいのか目標をもつこと／（欠席）／好きな曲を見つけること。

2年生：目標や課題をもつこと／弾けることを楽しむこと／時間の確保／休憩／楽しむこと。

3年生：練習する意味をもつこと／曲をもっと好きになること／確実な技術の向上／新しいことを見つけること／（欠席）。

4年生：考えすぎないこと／気分転換／休憩／演奏を楽しむ。

「⑧1年後の自分の演奏は_____なことを願う」という設問に対して、

1年生：上手くなったと自他ともに感じられる／もっと曲を理解して感情豊かに弾ける／聴く人にイメージが伝わる／もっと表現力が高くなっている／（欠席）／自信をもって弾けている。

2年生：人に伝わる演奏になっている／もっと自由に弾けるようになる／完成度が上がっていること／自分のしたい演奏ができる／先生に言われる前に自分で曲の構成を考えられる。

3年生：指がすらすら動いて、やりたいことができる／作曲家の意図を読み取って演奏につなぐこと

ができる／動きのあるおもしろい演奏／聴く人に何か響くものがある演奏／（欠席）。

4年生：ピアノを弾くことに少しでも自信をもっている／現状維持している／力が落ちない／やりたいことを音に表すことができる。

第8回のチェックシートの各設問に対する学生の回答

「⑥私はレッスンの復習を、_____（いつ）、_____（どこで）している」という設問に対して、

1年生：レッスン後、練習室または家で／レッスン後、練習室または家で／毎回の練習時、練習室で／レッスン直後、学校で／（欠席）／翌日、練習室で。

2年生：練習毎、練習室で／空き時間、練習室で／レッスン当日の夕方、学校や家で／レッスン後、練習室で／（欠席）。

3年生：レッスン後、家で／空き時間、家または学校で／空き時間、練習室で／空き時間、練習室で／レッスン後、学校で。

4年生：レッスンの日の翌朝、練習室で／レッスン後、練習室で／空き時間、大学や家で／レッスンの日の翌日、練習室で。

※練習室とは大学の練習室を指している。

「⑦今期、チェックシートへ記入をしたことで、自分には以下のような変化があったと思う（自由記述）」という設問に対して、

1年生：計画的になった／レッスン後にすぐに言われたことを復習できるので定着させることができると思うし、細かいところまで忘れずにいられる／レッスンにおいて何を学ぶことができたのか、何が課題なのかがレッスン後に整理して確認することができたのでよかった。また整理することにより次のレッスンまでの目標に向けてのやる気が出た／次回までに何に重点を置いて練習すればよいかわかるようになって練習しやすくなった／（欠席）／以前よりレッスンを大切にするようになったし、同じことを注意されないよう心掛けるようになった。

2年生：復習する際、細かい部分まで思い出せるようになった／今、自分が何をすべきかよくわかった／習ったことを文字に起こすことで、ああこういうことだったのだなと考えることができた／どこができていないか、自分の中で明らかになった。またどのような方法で練習したらよいか明確に考えられる／（欠席）。

3年生：反省点や直すべきところが明確になって練習の目標がはっきりした。聴くべきポイントがはっきりした。次回の課題もはっきりした・何ができなかったのか、次のレッスンまでの課題が明確になったので、練習がしやすくなった／自分のレッスンの内容を再確認し、練習すべき課題を明らかにすることができるようになった／自分が何を身につけたのか、また身につけていないのかをはっきりさせられた／きちんと課題をもって練習することができた。

4年生：何回も同じことを書いたのでいかに自分が成長していないかがわかった／今まで以上に自分の弱点がはっきりするようになった。書くことで、より意識して考えて練習できるようになった。復習しやすくなった／課題が明確になった／何ができていなくて、どのような練習が必要なのか分かるため、練習の内容が濃くなった。

また、これらのチェックシートとは別に、チェックシートに対してのアンケート調査を行った。実施時期は第4回目のチェックシート配布時で、質問数は5つである。なお、学生の回答は以下の通りであり、このアンケート調査の回答数は17名分であった。

・質問1：記入することで、練習やレッスンに対して意識の変化が見られたと思う、という質問に対して、全員が「はい」と回答している。また、学生の多くが「レッスンの復習ができ、自分のすべき点がより明確になった」と記述している。

・質問2：記入と提出方法について、以下の3つから最もよいと思うものを選択してください。①レッスンの直後にレッスン室で記入する方法②レッスンの後から下校までの間にゆっくり記入し研究室へ提出する方法③レッスンの日に自宅などでワードやエクセルファイルに記入してからメールで送信する方法④その他、という質問に対して、16名が①を、1名が②を選択している。

・質問3：記入するようになってから、次回のレッスンまでに自分がすべきことが以前より明確になったと思う、という質問に対して、「はい」と回答したのは16名で、以前と変わらないと回答したのは1名である。

・質問4：今後はチェックシートがなくても自主的に練習できると思う、という質問に対して、「はい」と回答したのは8名、「いいえ」と回答したのは3名、「以前と変わらない」と回答したのは3名であった。残りの3名は上記3つの選択肢にはない「わからない」という回答をしている。

・質問5：チェックシートの項目にこのような項目があったらよいな、と思うものがあれば自由に記述してください、については「どのようなことを意識して今日弾いたか、どのようなことを意識して練習してきたかを書きたい」(1名)「次回のレッスンの目標を書きたい」(1名)という意見が挙げられている。

6. 分析と考察

まず「5. 設問に対する回答」については、学生個々の性格が顕著に反映されていたため、回答は必ずしも筆者からみた印象と同じわけではないが、学生の現状を知るための指標となったと思われる。しかし、中には筆者の設問のねらいからずれているとみられる回答もあるため、そのような設問は今後改善すべきである。全体的にはチェックシートに対して肯定的であったと言える。また、学年ごとに特徴は見られなかったため、全学年で同じチェックシートを使用することが可能であると考えられる。

次に、本論で明らかになった二つの問題点について考察する。一つ目に、極少数ではあるがレッスンの度にチェックシートに記入することが面倒だと感じている様子の学生がいたことである。このような学生でも長期に渡ってチェックシートの記入を継続するためには、記入方法や記入項目の改善が必要であると考えられる。二つ目の問題は、レッスンの時間帯がコマの最後にあたる学生で次のコマに授業が入っている場合、記入の時間的余裕が足りず、記入が雑になることがあったことである。しかし、レッスン直後に記入させず学生の自由な時間に記入させ、提出期限を明確にしない場合、記入を放置する学生が発生するということが懸念されるし、「自律学習」を促すためには、レッスン直後に記入させるのが最善であろうと考える。この点について、上記のアンケート調査の質問2で①を選択した学生の一人が「レッスンを受ける順番が最後のときはその日のうちに記入して先生のところへ提出する方法を取った方がきちんと記入できる」という意見を述べている。この意見をふまえて、途中からレッスンの順番が最後の学生に限り、下校時まで提出できるような方法に切り替えた。

このようなチェックシートを授業毎に学生に記入させることは、学生にとっては負担であることに間違いはないと思われる。しかし、4週目に実施したアンケート調査によると積極的な意見も見受けられたことから、記入の方法や設問数、また設問内容が確立できれば、学生と教員の双方にとって有意義なものとなり得ると考えられる。また、このチェックシートはピアノ以外の楽器の習得をはじめ、専門科目以外の様々な演奏技術向上にも活用することが可能だと考えられる。

今回作成し、実験的に実施したチェックシートは、大学生を対象としているため全部で15回の授業を区切りとして作成した⁸。前期と後期で同様のシートを利用できること、そしてどの学年においても対応できることを重要視して作成したため、全ての学生に対して設問内容が適切でない部分もある

8 授業の第16回目はレッスンではなく受講者全員で意見交換会を行う。

だろう。今後は、学生にとって記入が面倒でなく、しかし自律学習を促すことができ、同時にどの学生も余裕をもってその日のレッスンや自己を振り返ることができる方法や内容に改善していくことが課題であろう。また、今後の改善点として、チェックシートの各回の①の項目にあるピアノ演奏技術の要素に「スケールの正しい奏法」「指ひろげ・指よせの技術」「指の保持」を追加することも検討したい。また、この項目には、習得できたと思う項目以外に「その他」の項目へ記入する学生も多くみられた。例えば「上半身の上手な使い方」「和声進行を考えて演奏する」「歌い方」「打鍵の工夫」「響きを聴く」「弾き方の癖を改善する」「運指の工夫」「練習方法の工夫」「脱力」「フレーズの作り方」「調和を考えて演奏する」「拍感が崩れない」「出したい音や旋律線を浮き立たせる技術」などが挙げられている。これらについても今後のチェックシートに追加することを検討したい。また、同様にアンケート調査の質問5で挙げられた学生からの意見（5. 結果と分析を参照）も参考にしたい。

おわりに

教員養成課程をもつ大学において、今回の本研究のようなチェックシートを用いた指導法の開発をしようとしている教員は筆者だけではないと思われる。そのため今後も可能な限り他大学の教員と情報を交換しながら、よりよい授業を行えるよう、様々な点について見直していきたいと考える。また、本論のために快く筆者の質問にお答え下さった教員の皆様に感謝したい。

参考文献

- 大木充, 西山教行, ジャン＝フランソワ・グラツィアニ『グラメールアクティヴ』別冊ポートフォリオ, 朝日出版社, 2010年。
峯石緑『大学英語教育における教授手段としてのポートフォリオに関する研究』溪水社, 2002年。